

## ひばりクリニック 実習を終えて

上原 大毅

まず始めに、先日の貴院での研修において大変お世話になったことを心より感謝申し上げます。私が、半日の研修において非常に感銘を受けたことは、在宅医療そのものの意味についてです。在宅医療は、いわゆるターミナルの方、自宅での加療や生活を希望された患者様に対しての医療的アプローチを行う場だと考えておりました。医療者が自宅に赴き、医療を提供するものと、端的ではありましたがそう感じておりました。しかし、実際はそれだけではないことに気付かされました。いわゆる病院のような治療・退院を目的とした診療であるのに対して、実際の現場は、社会的背景やもっと踏み込んだところ、すなわちプライベートな部分に対しての介入がとても強く、高橋先生の診察や患者様、ご家族の会話を耳にしてそう強く感じました。「何が辛いのか、今の症状はどうなのか」、とういことに加え、個々の趣味や状況をきちんと把握し、在宅医療を終えた最後には皆さまが笑顔になるという、肉体的な側面以上に精神的な側面への介入を垣間見ることができました。最初は、問診や診察をさせていただく時、「患者様の病名」を知りたいと考えましたが、だんだんと研修が進むにつれ、「患者様の性格や背景」を知りたいと思うようになりました。というのも、在宅での問診や診察は「病名」がわからないとできない、というような感覚があったからです。

在宅医療は、患者様及び医療者の相互的關係性が最も重要であり、それ以外にももっと踏み込んだ部分、すなわち患者様自身の社会的背景、そして何よりご家族の不安や精神的な苦悩に対しての介入、いわば三者の「輪」が重要視されます。この三者関係に重要なものは点滴や薬など特別な医療的ケアではなく、会話して、触れて、そして笑いあうことが大切である、と私は学びました。そして、これは在宅の現場だけで必要なスキルではないと考えます。すなわち病院という「医療(点滴や薬)を提供する場」においてもそれ以上に重要なことであるということです。日々の大学病院での医療において、今まで全くと言っていいほど意識していなかった部分であり、今後はこの学んだ教訓を活かして今後の診療に励むべきだと感じました。

まとまりのない文章ではございますが、最後に、今回このような機会・体験を与えていただき、高橋先生には心より感謝申し上げます。高橋先生の今後の益々の発展と活躍をお祈りしております。